

<今回>218回目 2017年9月1(金)15時~18時 602号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」343P 神津恭介氏への挑戦状 より

<前回>217回目(17-8-25) 出席者6名

資料 17-08-25-1)前回のまとめ(清水)

-2)装飾古墳の代表例(カラー写真)

A 報告

前回日下八光氏の装飾古墳の画集を見てもらった。先生の分析と異なる点を確認した。竹原古墳奥壁の複写の馬銜の巨大な角は舟に分離して描かれ(別に角らしきものはある)、天呉の8顔はひとつに描かれている。珍敷塚の奥壁のα線の上下は一体の絵となっている。写真と模写は異なっているようにも見える。複製の色鮮やかなのは顔料の調査からの復元だが、顔料の化学式などはどれにも示されていない。久保氏の多元の会での発表に若き日のエバンズ夫妻の縄文土器調査で長野を訪れた時の写真を発見、長野上川村の遺跡調査のメンバーと共に映っている。

前回懇親会を中止したので6名で実施。

津多屋 11033 円(4・1900+2000・2)+567

B 装飾古墳の回覧史料(榛葉)あり、-2)4例カラーコピーに竹原古墳を落としたのは残念。

C 読書 p324 エバンズ夫妻との往復書簡 より

1)1971-8-7古田一エバンズ氏へ最初の書簡。3世紀の日本人がアメリカ大陸に至る航路、南アメリカ大陸の西岸部に文明圏が存在していることを知っていた。朝日ジャーナル(1971・7・23)古代アンデスの謎、ライフ誌(1970・10・16)の報告でよく知ることができた。

2)1971-8-11返事。古田氏の古代日本歴史上の記録に対する研究から新世界への航海についてコロンブス以前の時代を通じてアジアからアメリカの太平洋を越えて数多くの接触があり、BC3000年頃エクアドル海岸部へ日本の中期縄文期の土器が渡来した事実に対する証拠を詳述した本を送りました。

3)1971-9-1古田一エ 九州から南米北部の航海図は私の研究から得たものと同じであったと喜んだ。

4)1971-11-30古田一エ 「『邪馬台国』はなかった」の本を送る(1971・11朝日新聞社)第6章Ⅲ参照)

5)1972-1-28 エー古田 本の受け取り、アメリカ青年の横断計画(ダイキ号の実験?)

6)1972-3-11 古田一エ ヘイエルダーの実験は相互に知っているが堀江、牛島のヨット航海は知らなかった。

7)1972-3-16エー古田 アメリカ側の企画した青年の名はベルヒャー氏の名が明らかにされ、協力を依頼された。

8)1975-2-16 古田一エ 「海賦」の発見と研究、崎谷哲夫氏(朝日新聞社)がハーバード大留学時訪問を打診

9)1975-4-20 古田一エ夫妻 崎谷氏を通じてメガーズ夫人の「先史アメリカ」を受け取った。「邪馬壹国の論理」の出版予告した。往復書簡の掲載許諾を依頼。

10)1975-4-29 エ夫妻一古田 アルゼンチン学者ワルター・ガルディオ氏が京都に滞在中を告げ面談を期待。

11)1975-6-30 古田一エ夫妻 ワルター氏に2回会った。義兄の病気(井上嘉亀永眠62歳神戸大工学部)

12)1975-7-17 エ夫妻一古田 初期の失われた手紙を発見、ベルヒャー氏は企画断念、「アマゾン」をメガーズ博士は寄稿、コロンブス以前と以後のアマゾン低地の環境への順応

13)1975-7-21 古田一エ夫妻 先の往復書簡の、この書への掲載許諾に感謝。アマゾン日本語訳に期待。

次回日程 17-9-25(月)15時から18時 603号室

10-6(金)15時から18時 601号室

10-27(金)16時から18時 601号室